２０２４年１１月１日発行

海匝・山武 男女共同参画だより

第12号

～ 地 域 で ひ ろ が る 笑 顔 の 輪 ～

「男女共同参画」とは、地域の一人一人がお互いを尊重し合い、笑顔で過ごせる社会を目指すもので、ごく身近にあるものです。「男女共同参画だより」では、千葉県男女共同参画地域推進員がそれぞれの地域で男女共同参画に携わるお仕事・活動をしている方々を取材し、紹介しています。

がんばれ！ippolabo.（いっぽらぼ）　銚子市（岩瀬 賢氏・山本 政美・金尾 記子）

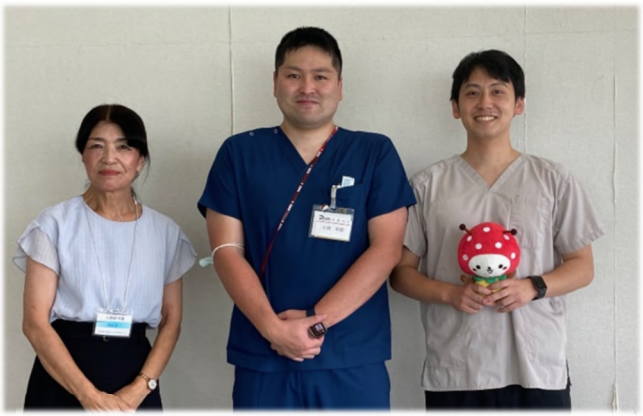
「ippolabo.」は、農家の若いお嫁さんの石毛理恵さんと宮内由美さんが、銚子を思い、綺麗な海と子どもたちの未来を繋いでいくことを目的に令和３年11月に結成しました。銚子や子どもたちの未来のために、今何が出来るのか、自分たちのわくわくすることは何かを大切にしながら活動しています。

宮内由美さん　石毛理恵さん

主な活動は、ビーチクリーンと小児がん支援のためのレモネードスタンド（子どもの販売体験、売上の寄付）、そして令和５年11月から「わくわく広場」を開催し、親子だけでなく、地域の誰もが参加できる多世代交流を目指し、ボランティアスタッフとともに、子供服や絵本、おもちゃのお下がりバトン、ベビーマッサージやバルーンアート、伝統芸能の披露、楽しい遊びなど、毎回50名位が参加しています。

「どんな小さな一歩でも踏み出さないとはじまらない！私たちと一緒に『はじめの一歩』を踏み出してみませんか？一緒に活動してくれるメンバーを募集しています！」と、語ってくれました。

職業のジェンダーギャップを超えて～さんむ医療センター爽やかメンズナース～　山武市（諏訪 富美江）



諏訪推進員　小倉和樹さん　永島秀一郎さん

さんむ医療センターに勤務する、看護師の小倉和樹さんと永島秀一郎さんに取材しました。

親族に医療従事者がいたことや、高校時代の先生に勧められたこと等がきっかけのお二人は、医療の道を目指し医療系の大学に進学し、さんむ医療センターに就職。実際に看護師になってみて、かなり多忙を極める仕事だと分かり、それだけにやりがいも大きく、だからこそ長く続けられているとのこと。職場の雰囲気については、性別に関わらず育児休暇を取得しやすい等のほか、女性の多い職場なので男性がいることで『場が和む』との声もあるとのこと。また、患者さんのニーズによっては、男性が対応した方がスムーズにいくシーンもあるようで、男性看護師は欠かせない存在だと感じました。お二人共係長としての役割を果たしながら、専門分野の勉強もしつつ、外部での講演活動もあり、極めて難しい両立を果たしているようです。今後の抱負は、「特定行為研修」を受講し専門分野に特化し、地域医療を充実させていきたいと瞳を輝かせていました。人命を預かるお仕事ゆえに、責任感、使命感のある真剣な眼差しをされているお二人の、今後のご活躍を期待しています。

フレッシュ　女性大工さん　活躍中！　　旭市（伊藤 浩子・藤野 祐子）

本柳佑季さん

旭市のハヤシ工務店で社員大工として働く　本柳佑季（もとやなぎ・ゆうき）さんにお話を伺いました。

高校の時、進路を考える過程で、自分は身体を動かすことが好きで、「木」の香りや感触に魅力を感じ、将来は「木」を扱う仕事をしたい、職人としての技術を習得して一棟の家を建てられる大工になろうと決心したそうです。

勤め始めて間もないので、できることはまだ多くはないけれど、材料をそろえたり運んだり、ビスを打ったりするなど、少しずつできる仕事も増え、任せてもらえることに喜びとやりがいを感じているとのことです。

体調管理は大切で、一日の始まりである朝ご飯は、栄養を考えてしっかりとるようにしているし、自宅で筋トレなど体力作りも欠かせないそうです。

当初は厳しい世界だろうしどうしようと思ったこともあったそうですが、勇気を持ってとび込み、「今は周りの方のサポートのおかげでよい環境の中で仕事をしています。」と感謝の言葉を口にし、洗練された仕事ができることを目指して頑張っていきたい、と話していました。明るく真面目なお人柄の佑季さん、コツコツと技術を習得し立派な大工職人になることでしょう。応援しています！

ぼく、育休（育児休業）取りました　　芝山町（鈴木 京子）

「パパ、抱っこして～」――…　育児休業は、男性も取得できます。

今回、芝山町役場に勤務されている川野遼さんにお話を伺いました。

川野さん親子

【育休を取ったきっかけ】
- 妻の負担を減らしたい
- 子育てをしっかりやりたい

【育休を取る時の職場の雰囲気】
- 取得経験のある先輩の後押しがあった
- 温かい声かけもしてもらった

【育休を取って良かったと思えたこと】
- 子供の日々の成長や、小さな変化にも気づけた
- 夫婦の信頼関係もより強くなった
- 子育ての喜びや、大変さを夫婦でわかちあえた

【育休を取って改めて考えたこと】
- 仕事面で周囲に負担をかけてしまったことについては、やはり後ろめたさがあった
- 時間の使い方や、チームワーク等、仕事に関する意識が変わった
- 早く帰って家族との時間を作るために、日中の業務効率や集中力がより増した

～～素敵なパパ川野さんの育児参画のお話でした。～～

厚生労働省の発表によると、令和５年度の男性の育児休業取得率は３０．１％に達したそうです。目覚ましく伸びてはいますが、女性と並ぶのはいつになるでしょう。

社会全体で、男性の育休取得を応援していきましょう。

男性も女性も共に輝ける芝山町、千葉県、そして日本を目指して。

千葉県男女共同参画地域推進員とは

男女共同参画社会づくりを進めていくためには、県民一人ひとりの意識を高めることが必要です。

そのため、千葉県では「千葉県男女共同参画地域推進員」を知事が委嘱し、地域推進員は県内６つの地域に分かれて活動しています。

地域推進員は、地域と市町村・県とのパイプ役となり、各地域の特性を踏まえて、講座・講演会の開催や広報誌などの事業を通じ、地域での男女共同参画の意識の普及・啓発をしています。

～まちを守る大きな力に　九十九里町女性消防団発足～　九十九里町（若山 千加子）

九十九里町女性消防団員の皆さん

今年は九十九里町女性消防団を取材しました。九十九里町では今年初めて 11 名の女性消防団員が誕生しました。

入団のきっかけは、無線で地域の火災情報や行方不明者の情報を耳にしたり、大規模災害をニュースで見る機会が増え、自分の住む町に関心を持つようになり、住民として何かできることがあれば協力したいと思ったことだそうです。

今年度は、応急手当普及員の資格を取得し、普及活動を行います。

女性消防団員の皆さんより、「訓練してみて、応急手当の資格講習では、心肺蘇生法や AED の取扱い等について学んだが、いざと言う時に冷静に行動に移せる人を増やすため、応急手当の普及活動を頑張りたいと思った。活動してみて、当初は仕事との両立が出来るか不安であったが、無理のない範囲で活動に参加出来るので、安心した。」と感想をいただきました。

地域防災の重要性が叫ばれる中、地域を支える女性たちの力が注目されています。小さな力も、集まれば大切な家族や自分たちのまちを守る大きな力となります。女性の方も町を守る消防団で、一緒に地域貢献してみませんか？

好きな木々に囲まれて　横芝光町（伊藤 清美・石川 真由美）

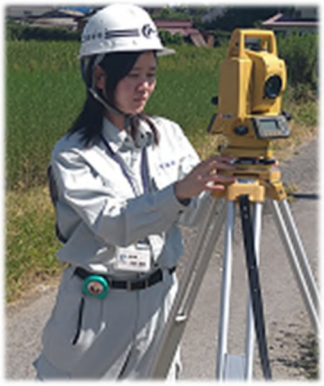
自然の恵みに感謝しつつ、日々、木々と向き合っている「恵松園」の宝山幸奈(ほうざん・ゆきな)さんからお話を伺いました。盆栽屋から始まった恵松園ですが、現在は広大な敷地内でローズマリー、オリーブ、ヒイラギ等の低木植栽を生産しており盆栽の技術を生かしつつ時代に合った植栽を営んでいます。

宝山幸奈さん

幸奈さんは、子どもの頃から親の仕事に憧れをもち、植栽の手伝いをしていたそうです。中学生の頃には、恵松園を継承しようと考え、専門の大学に進学するという夢を描いていました。大学卒業後は大手ハウスメーカーに勤務し、エクステリアプランナーとして設計から施工、営業までを行っていました。

木に向き合い続ける中で次第に夢も広がり、現在は SNS を活用して全国の方々に木々の情報を届ける等、ご家族と共に恵松園を盛り上げています。「人工の家に一本の木を植えるだけで、全体的な家の雰囲気が優しくなります」と話す幸奈さんの笑顔と芯の強い眼差しから、育てた木を庭に植え、お客様に喜んでいただけるというやりがいのある仕事に自信と誇りをもっていると感じました。

市役所で活躍する土木女子　匝瑳市（男女共同参画担当）


佐藤さん

匝瑳市役所で土木女子（ドボジョ）として活躍する佐藤さんを紹介します。

昔から建物や建築に興味があり、工業高校で建築や土木を学んだ佐藤さんは、現在、建設課土木班に所属しています。

土木・建設業は男性の仕事というイメージが強く、男性職員が多い建設課の中でも、佐藤さんは唯一の女性の技術職の職員です。

主な業務は、市道の維持管理のため、傷んだ舗装の補修や道路の新設舗装、改良等の工事設計のほか、側溝や水路の整備などを行っています。道路の異常があると通報があった際には現地に行き対処するなど、体力を必要とする場面も多いですが、道路が完成するまでの過程を自分の目で見ることができるので、達成感がある仕事であると感じているそうです。また、佐藤さんは、CAD というコンピューター上で図面などの設計ができるツールでの製図が得意で、性別に関係なく、個人の能力を活かせるといいます。

最後に、多くの女性に建築や土木の魅力を知ってもらい、将来、さらに多くの土木女子が活躍してほしいと話していました。

若き男性保健師にエール！　　大網白里市（今井 静子・澤畑 道子）

齋藤優汰さん

「皆さん、ご一緒にロコモ体操をしましょう。」一体操のお兄さんよろしく高齢者の皆さんの前で軽快に体操をする人こそ、市で唯一の男性保健師、齋藤優汰さん。

昨年度までは、高齢者支援課の介護や福祉サービスの窓口業務で、高齢者の皆さんに寄り添う温かな対応で人気を得ていました。そして、本年度は健康増進課に異動し、健康診断やがん検診などの成人保健予防や乳幼児健診の仕事に携わっています。

齋藤さんは、「保健師は、人と触れ合う仕事。地域の方々と幅広く関わり、人とのつながりの大切さを実感しています。より多くの人の健康につながる仕事をしていきたいと思います。」と語っていました。また、「（父親になった暁には）母子保健指導にも参入し、父親の立場で育児指導ができるようになりたい。」とも。男性であることが活きる仕事もあるはず、育児に関わる父親のフォローにも期待したいところです。

地域住民の健康づくりや母子保健指導に取り組む保健師の世界は、全体の約９７％が女性という圧倒的な女性の職場です。そんな中で「黒一点」として奮闘しています。これからも、爽やかな笑顔と親切な対応で、地域の方々に安心と希望を届けてくれるよう、さらに、ジェンダーフリー社会の実現のためにも大いに活躍してくれるよう期待しています。

「東金国際こども園」副園長　大泉由美子さんを訪ねて　　東金市（相京 眞澄）

大泉由美子さん

今回は、今年４月に開園した「東金国際こども園」で副園長を務めている大泉由美子さんを取材しました。

この園は、今年の３月に閉園した市立東金幼稚園と第１保育所を引き継ぐ施設として社会福祉法人が運営するこども園です。

大泉さんは市立の保育所で長く勤務され、所長も務められていましたが、今回の開園にあたって、それらの経験を活かしたいとの気持ちから勤務することを決めたそうです。

大泉さんは小さい頃からこどもが好きで、それがきっかけとなって保育士になったそうです。０歳児から卒園までの６年間の成長を保護者と共に見届けられることに喜びを感じるとお話しされていました。また、大泉さんがきっかけとなって教え子が保育士になったことも嬉しい思い出だとお話しされていました。

「保護者に寄り添い、このこども園に預けて良かったと思ってもらえるような園にしたい。こどもの主体性を伸ばすことを重視したい。遊びのなかに学びがある。こどもたちにはそこから学んでいってほしい。」と話す大泉さんの笑顔は、とても温かく素敵でした。

男女共同参画だよりへの感想をお寄せ下さい

『海匝・山武男女共同参画だより』をお手にとっていただき、ありがとうございました。右の２次元コードまたはURLの**『ちば電子申請サービス』**にて、ご感想をいただければ幸いです。

『男女共同参画だより第１２号感想』

URL：https://apply.e-tumo.jp/pref-chiba-u/offer/offerList_detail?tempSeq=35375

＜発行＞
千葉県男女共同参画地域推進員（海匝・山武地域）
＜事務局＞
千葉県男女共同参画センター
〒260-0001　千葉市中央区都町 2-1-12
TEL：043-420-8411　FAX：043-420-8581